

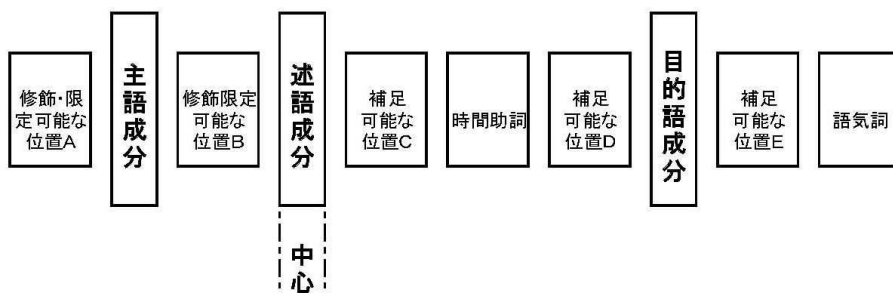
中国語における文の中核的な述語に先行する要素の配置について

劉 志偉

キーワード 日本人学習者 日本語 視覚的 全体像

1. はじめに

中国語の学習において、語順が全てではないにしても極めて重要であることは言うまでもない。筆者は、学習者が「視覚的」に中国語の語順を習得できるよう目指すべく、次の図で示すような構造を提案した¹。この構造を用いることによって、学習者は具体的にどの箇所の内容について学習しているのかを把握することができ、全体像を理解した上での学習ができる²。また、一般的に、活用がなく³、品詞の兼類が多いとされる中国語における個々の語彙が、実際の文においてどの品詞の用法で使われているのかを判断することができる。



更に、筆者は、日本語母語話者がいかに分かりやすく中国語の文法を理解できるかを出発点とし、日本語の構文等の特徴を最大限に利用することで、日本人学習者にとっては馴染みにくい、中国語の特徴的な構文についてもより簡単に習得できるよう考えている。

¹ 本構造において、主要成分である主語成分・述語成分・目的語成分の三つが同レベルのものを指しているわけではない。説明の便宜上、同じ大きさのケースを用いる。なお、後述の通り、主語成分に現れるものには「主語」とは言い難いものも含まれる。英語に触れたことのある学習者も多からうということに鑑みての、説明の便宜によるものである。

² 筆者自らの語学学習経験から言えば、全体像を理解した上での学習方法はすこぶる有効なものである。筆者が提案した本構造は、文を理解するだけでなく、ヒアリングの上達にも役立つ。

³ 筆者は、中国語の特徴を日本語のそれと比較して、中国語にも活用らしきものが存在すると考える。例えば、結構助詞や時間助詞（いわゆる動態助詞）がそれである。

本稿では、主として初・中級の学習者⁴を対象に、述語成分に現われる諸タイプをまず示しておく。続いて、図で示している A ケースと B ケースに入る内容のパターン⁵を提示した上で、述語成分を軸にその前方と後方の位置⁶による意味的文法機能の相違を明らかにする。

2. 述語成分について

中国語の述語は一般的に形容詞の類と動詞の類との二種類に大別することができる。ただし、述語を構成するのは裸の形容詞もしくは動詞とは限らないので、本稿ではそれを「述語成分」と称する。なお、一般的に「名詞述語文」と呼ばれる構文の説明が広く行われているが、日本人の学習者にとって必ずしも有効な説明であるとは言いがたいこと、この構文は述語を有する表現として見なしうることを考え合わせ、筆者は「名詞述語文」を認めない立場を取る⁷。以下、形容詞型の述語文と動詞型の述語文に分けて諸形式を略述する。

2.1 形容詞型の述語文

日本語における意味的な特徴を踏まえて、単独の語彙と複合した表現がそれぞれ述語成分となりうるという考え方にに基づき、以下の諸パターンを示す。

2.1.1 日本語には形容詞と形容動詞と呼ばれる品詞がある。その形態的な特徴から日本語教育においてはイ形容詞、ナ形容詞と呼ばれることもある。中国語の場合、一般的に用言の活用を持たないとされているため、両者ともに形容詞に属する⁸。

大熊猫真可愛。(イ形容詞：可愛い)

(パンダは本当にかわいい。)

这附近非常安静。(ナ形容詞：静か)

(この辺りはとても静かだ。)

⁴ 必ずしも明確な基準を持つわけではない。概ね中国語検定試験の3級レベルに相当するが、2級を含んでも差し支えない。

⁵ 基本的には語やフレーズに限る。

⁶ 後に述べるように、語気詞については別のレベルで扱う必要がある。

⁷ 「名詞述語文」で否定を表す場合、必ず「不是」を用いなければならないことから、「是」を述語に持つ構文の一種と見なすことが可能である。詳細は後述の「判断動詞」を参照されたい。

⁸ 『現代漢語詞典』第6版を除いて、ほとんどの辞書に品詞が表示されていないことからわかるように、中国語の場合、ある単語に対し、絶対的な品詞区分は不可能である。同じ語であっても文に現れる箇所によってその用法が異なる。従って、本稿で示す個々の品詞はあくまでもその品詞的な用法を指す。

2.1.2 日本語では「感動する」のような心理活動に関わるタイプの動詞がある。これは一種の心理状態を表すもので、意味上形容詞に近い部分がある⁹。中国語の場合、このタイプの動詞は形容詞的な用法と動詞的な用法の両方を持つ場合がある。

我现在非常担心。(形容詞的な用法)

(今とても心配だ。)

大家都担心明天会不会下雨。(動詞的な用法)

(明日雨が降らないか、みんな心配している。)

2.1.3 日本語では形容詞とされる言葉でも、中国語になれば形容詞の用法と動詞の用法の両方を持つ場合がある。これと同様、日本語では動詞とされる言葉でも、中国語の場合、形容詞と動詞の二通りの使い方を持つことがある。

最近他一直很忙。(形容詞用法)

(最近彼はずっと忙しい。)

你就忙你自个儿的吧！(動詞用法)

(自分のことを先にして。)

早上的电车实在挤得要命。(形容詞用法)

(朝の電車はマジで死にそうに混んでいた。)

每天上班都得挤电车。(動詞用法)

(毎朝ギュウギュウ詰めの電車出勤する。)

2.1.4 中国語の場合、「好看」「好吃」「好玩」「好听」のような一見「形容詞＋動詞」のタイプがある。また、「有意思」「有趣儿」「有意见」のような「動詞＋名詞」のタイプもある。これらの表現は意味上からして大きな形容詞(複合形容詞)と見なして学習したほうがより効果的であると思われる。

这支笔特别好写。

(この筆は特に書きやすい。)

他对这种问题很有研究。

(彼は、この種の問題を突き詰めている。)

⁹ 「感動する」と深く関わる言葉として「感動的」というナ形容詞が挙げられる。

听完他的演讲，大家都非常地受启发。

(彼の講演を聞き終えて、みんな大いに触発された。)

2.1.5 本稿で提案する構造においては、単独的な形容詞の用法のみならず、必要に応じて文全体が大きな形容詞として用いることとする。

他本来胆子就很大。

(彼はもともと肝が太い。)

他本来就胆子大得不得了。

(彼は呆れるくらい肝が大きい。)

这次没能及时通知你的确我不对。

(今回、すぐにお知らせしなかったことは、確かに私が悪かった。)

2.2 動詞型の述語文

以下に挙げる動詞述語文の諸タイプは、主として初・中級の学習者にとってまず習得しなければならない基本動詞の分類である。市販の教科書や検定資料に基づき抽出した類別であり、中国語の動詞を包括的に分類するためのものでないことを予め断っておく。なお、動詞の命名については、あくまでも学習者に分かりやすく理解してもらうことを第一の目的としている。

2.2.1 判断の意味を表す動詞¹⁰

現代語で最も用いられるのが「是」である¹¹。「是」が動詞として使われる場合、意味上イコールの関係と従属する関係の二つに分けられる¹²。前者が主語成分と目的語成分の位置を置き換えられるのに対し、後者はそれができない。また、中国語の動詞には、アスペクト助詞を付けられるものと付けてはいけないものがあることも学習者に提示しておく必要がある¹³。「是」はアスペクト助詞「了」「过」「着」を付けてはいけないタイ

¹⁰ 厳密な意味で判断とは言いがたいものもある。概ね命題を示す表現のことである。学習者にわかり易く理解してもらうために、この命名を用いる。なお、日本語における形容詞の命題について「是」を用いないことを強調しなければならない。

¹¹ 書き言葉では「为」を使うこともある。例えば、「该校为北京成立最早的学校。(この学校は、北京に建てられた最も古い学校だ。)」がそれである。

¹² いわゆるムードの「是」は副詞の用法であり、本構造ではBケースに入れられる。「今天是特冷。(今日は特に冷える。)」

¹³ 後者について呂(2003: 19)の記述を援用すれば、「一般に重ね方にすることができず、‘了・过・着’をとみなわない。主語は厳密な意味での動作の主体ではなく、客語も厳密な意味での動

プの動詞である。

他**是**我们的中文老师吗？（イコール関係）

（彼は私たちの中国語の先生ですか？）

木村**是**一名非常优秀的演员。（あるカテゴリーに属する関係）

（木村さんはとても優秀な役者だ。）

主語成分や目的語成分は一つの名詞であるとは限らず、節である場合も多い。

望子成龙**就**是希望自己孩子成为优秀的人才。

（「望子成龙」とは自分の子供が優秀な人材になるよう願うことである。）

你**是**今天去（上海）**还**是明天去（上海）。

（（上海に）今日行くの？それとも明日行くの？）

有趣的**是**他真不会说中文。

（面白いことに、彼は本当に中国語を話せないのだ。）

遗憾的**是**不是所有的人都有时间来。

（残念ながら、皆が皆、来る時間があるわけではない。）

また、目的語成分が時刻、曜日、年齢などを表す場合、習慣的に「是」は文に用いないが、打消を表す場合は「是」を省略してはいけない。

现在（**是**）几点？（今何時？）

我奶奶今年 90 岁。（私の祖母は今年 90 だ。）

今天**不**是星期五。（今日は金曜日ではない。）

2.2.2 動作や行為を表す動詞

動詞には目的語成分を求めるタイプと求めないタイプがあることは言うまでもない。「及物动词」と「不及物动词」という用語は「他動詞」と「自動詞」に相通ずるところもあるが、目的語成分を求めるかどうかという点から考えて¹⁴、日本語を母語とする学習者にとって、自動詞や他動詞といった用語を用いて中国語の動詞述語文を説明することは有効な方法であると言いがたい。

大家都**站着**。

（みんな立っている。）

作の対象ではない。客語は省略できない。」といった特徴が挙げられる。

¹⁴ 中国語の目的語成分は厳密な意味で動作の対象を表すものとそうでないものの二種類に分けられる。いわゆる「受事客語」と「非受事客語」と呼ばれるものがそれである。この点についても合わせて学習者に示しておく必要がある。

咱们去喝咖啡吧¹⁵！

(コーヒー飲みに行こう！)

我不太喜欢北京日夜喧嚣的气氛¹⁶。

(北京の絶えず騒々しい雰囲気があまり好きではない。)

你去不去杭州¹⁷？

(杭州に行かない？)

2.2.3 所有や所在の意味を表す動詞

「在」と「有」は日本語の「いる」「ある」の意味を表す表現で両者を合わせて説明するのが有効であると考えられる。学習する際は、日本語の訳で「いる」あるいは「ある」の直前にある名詞が物名詞あるいは人名詞である場合、「有」を用いるのに対し、所在を表す場所名詞の場合のみ「在」を使うという法則を学習者に覚えてもらう。

我只有一本词典。

(一冊しか辞書がない。)

他家有两位已上九旬的老人。

(彼の家にはもう90歳を過ぎているお年寄りが二人いる。)

公司对面儿有一片空地¹⁸。

(会社の向かいに空き地がある。)

我爸爸今天在家¹⁹。

(お父さんは今日家にいる。)

そして、「有字句」については以下のような表現に注意する必要がある。

书店有很多书可买。(本屋には、価値のある本がたくさんある。)

我有个朋友会说四国外语。(友達に4ヶ国語を話せる人がいる。)

¹⁵ 目的語成分については、中国語学でよく取り上げられている「吃了他三个苹果。(彼のりんごを三つ食べた。)」 「打碎了他四个杯子。(彼のコップを4つ割った。)」のような構文がある。こうした構文について本稿は「他(的)三个苹果」「他(的)四个杯子」全体を所有関係を表す目的語成分と見なす。

¹⁶ 「喜欢」のような動詞は動詞の前に使われる場合もあるが、そのようないわゆる助動詞的な用法は述語成分に対する助意表現として本稿においてはBケースに入れる。

¹⁷ 「去不去」全体が複合した形の述語成分を成す。なお、本稿では「去(杭州)度假。((杭州に)バカンスに行く。))」をセットとして扱うため、後述の内容を参照されたい。

¹⁸ 無主語述語文については後述の内容を参照されたい。

¹⁹ 「在」には「我在大学学过一年中文。(私は大学で一年間中国語を学んだことがある。))」「我现在住在京都。(今京都に住んでいる。))」のようなセット用法(後述)と「妈妈在做饭呢！(お母さんは、今ご飯を作っているところなの！)」のような副詞的な用法もある。

最近我一直没有时间去旅游。(最近はずっと旅行に行く時間がない。)

没有人知道他们现在在干什么。(彼らが今何をしているか知る人はいない。)

これらの表現は理論上「书店有很多可买的书。」「我有一个会说四国外语的朋友。」「最近我一直没有去旅游的时间。」「没有知道他们现在在干什么的人。」と言ったところで決して非文とは言い切れないが、中国語母語話者の場合、圧倒的に上述のような表現が用いられる。

2.2.4 授受関係を表す動詞²⁰

このタイプの動詞の特徴として、直接目的語と間接目的語の両方を取れることが挙げられる。そして、間接目的語（以下、「間接」と称す）の位置は常に直接目的語（以下、「直接」と称す）の前にある。呂（2003）に基づき、更に分類すれば、以下の4パターンに分けられる。

イ、間接または直接のみで可

河村突然问我 明天去不去她老家。

（河村さんが突然明日実家に行かない？と聞いてきた。）

ロ、間接のみで可だが、直接のみは不可

老师告诉了大家 一个好消息。

（先生がみんなにいい知らせを伝えた。）

ハ、直接のみで可だが、間接のみでは不可

这件事给了大家 一个很好的提示。

（これがみんなにとっていいヒントとなった。）

ニ、間接または直接のみはどちらも不可

同班同学都亲切地叫她 小妹。

（クラスメートはみんな親しみをこめて彼女を小妹と呼んでいる。）

2.2.5 心理や思考に関わる動詞

本タイプの動詞は大きく二つのグループに分けることができる。一つは上述の動作行為動詞と同様、名詞を目的語成分とするもの、または、節や句を目的語成分とするものである。例えば、「知道」「相信」「研究」「记得」のような動詞がこれにあたる。

²⁰ いわゆる直接目的語成分や間接目的語成分を求める動詞の一群である。

我**知道**这件事。(この件について知っている。)

大家都**知道**这是怎么回事。(みんなこの件がどうなっているか知っている。)

请**相信**我！(私を信じてください！)

我**相信**通过努力一定会成功的。(努力すれば成功できると信じている。)

もう一つは、節あるいは句だけが目的語成分となることができるという特徴を持つ動詞である。具体的には「觉得」「认为」「以为」「希望」等の動詞が例として挙げられる²¹。

我**以为**大家还不知道呢。

(みんなまだ知らないと思っていた。)

所有人都**希望**家人平安幸福。

(全ての人が、家族が穏やかで幸せに暮らせるようにと願っている。)

2.2.6 使役の意味を伴う動詞

使役系の動詞には二つのグループがある。一つは、現行の中国語教育では使役のマーカールとされている「使」「让」「叫」「派」の類である²²。

他老**让**我给他出馊主意。

(彼はいつも私に悪知恵を出させていた。)

公司**派**佐藤前往北京进行半年的研修。

(会社は佐藤さんを北京へ半年間の研修に行かせた。)

もう一つは、使役の意味を含む他動詞である。例えば、「请」「劝」「打发」「要」「逼」「招」「鼓舞」等が挙げられる。

他很明显想**打发**我们早点儿回家。

(彼は明らかに私たちを早く帰らせようと仕向けていた。)

上司**要**我每天早晚各向他作一次工作报告。

(上司は毎日朝晩作業報告をするように指示した。)

ここで注意しなければならないのは、使役系の動詞は節または句全体を目的語成分とするという点である。本稿の説明では、目的語成分を成す節または句の日本語訳に「せる

²¹ 「～を楽しみにしている」のような、日本語の特徴的な表現に関しては、中国語指導者による補足が重要である。「我们期待与您早日相见。(私たちはあなたにお会いできる日を楽しみにしています。)」

²² 日本における中国語教育では、後述の受身文の説明と同様、中国の中国語教育の影響を強く受けている嫌いがある。筆者は、使役文と受身文については日本語の特徴を活かしつつ、説明の方法を考え直す余地があると考えている。従来の説明では使役または受身のマーカールとされているものを、本構造においてはそれぞれ動詞と見なし、述語成分に入れることとする。

／させる」を伴わず、事柄としてありのまま述べることを条件とする。こうすれば、従来の説明における「兼語」という日本人学習者にとって馴染みの薄い表現を避けることができる。

また、使役表現を説明する際に、マーカー型の使役表現を最初に学習させるため、学習者が使役の表現をすべて「せる／させる」と訳してしまう傾向がある。日本語における「～してもらう」「～するようにと言った」「～させてしまった」等の表現も中国語では使役文に訳される場合もあるということを、学習者に予め示すことが肝要であろう。

这次大会**请**著名学者**L**作报告。

(今回の大会は著名な学者**L**先生に報告をしていただきます。)

医生**叫**我多吃蔬菜。

(医師は私に野菜をたくさん食べるようにと言った。)

孩子要**这要那****弄**得父母不知如何是好。

(子供があれこれほしいと喚くので、両親はどうしたらよいかわからない。)

2.2.7 受身の意味を表す動詞

上の使役系動詞と同様、受身の意味を表す動詞の中にも、現行の説明では受身のマーカーとされているものがある。「被」「让」「叫」「给」等がそれである。前述の通り、本稿では、従来の「兼語」という説明を取り入れないため、これらのマーカーについては、使役系の動詞に関する説明と同様、節または句を求める動詞と見なす。本構造においては述語成分のケースに位置するものである。また、目的語成分とされる節または句の内容について考える段階では、「れる／られる」を用いずに、事柄をありのまま捉えることを条件とする。例えば、「我被他吃了三个苹果」を日本語訳する場合、目的語成分である「他吃了三个苹果(彼はりんごを3つ食べた)」ということ、私はされた。と考えることができる。逆に言うと、日本語の「(私は) 彼にりんごを3つ食べられた」を中国語にする場合、「私は」と「(人) に～された」という意味を抜いた「彼がりんごを3つ食べた」という文を目的語成分として考え、「我被～」の「～」部分に挿入すればよいということになる。

搁这儿的书**被**谁拿走了。(ここに置いた本が誰かに持って行かれた。)

让人骗了²³。(騙された。)

²³ 「让」「叫」は使役動詞として使用されるので、学習者に示しておく必要がある。

终于叫人骂了吧！（やっぱり怒られたんだろう！）

自行车给丢了。（自転車を失くしてしまった。）

一方、中国語には意味上の受身もある。日本語の受身文と同様、動作主不明または不問である場合、意味上目的語成分であっても主語成分の位置に置かれる。例えば、

这种新产品果然卖得很火。（この新商品はやっぱりとても売れている。）

勿論、日本語に意味的な受身文が存在しないというわけではない。例えば、

犯人が捕まった。

ただし、中国語に訳すにあたって、補語表現やマーカーを伴った表現を用いる必要がある。

犯人抓到了。（結果補語）

犯人被抓了。（受身文のマーカー）

このような相違を示すために、更に日本語と中国語を一例ずつ挙げることにする。

（外的要因によって）コップが割れた。

杯子被打碎了。（受身文のマーカーと結果補語の両方）

このように、意味的受身文については、中日両言語において対応しないものが多いといえよう。従って、受身文の内容を教授する際、マーカーを伴う受身文のほか、意味的受身文についても説明しておく必要があるだろう。

2.2.8 現象や出現・消滅の意味を表す動詞

文字通り、自然現象や出現・消滅（の事実）に関わる動詞である。これらの動詞を用いる場合、日本人学習にとって理解にくい「無主語述語文」を成す場合があるため、一つの動詞タイプとして挙げることにする。

昨晚下了一场大雨。（夕べ大雨が降った。）

外面开始刮大风了。（外は風が吹き荒れ始めた。）

来客人了²⁴。（（突然の）客が来た。）

（在）那里站着一个人浑身湿透的人。（あそこに全身びしょぬれの人が立っている。）

現代中国語には、一見目的語成分を求めない動詞でも目的語成分を要する動詞がある²⁵。

²⁴ 「来客人了。」に対し、「客人来了。（（予定していた）客が来た。）」のような主語を伴う言い方も存在する。その違いをあわせて説明しておく必要がある。「着火了。（出火した。）」「火着了。（火がついた。）」も同様な関係にある。

²⁵ 方梅（2010）によれば、マスコミ等の影響を受けて一般化される傾向にあり、その多くは通時的に見ると、比較的に新しい表現であるという。

注意多穿点儿衣服，隔壁班最近感冒了好几个人。

(最近隣のクラスで何人も風邪をひいている人がいるから、服をたくさん着たほうがいいよ。)

以上 2.2 では、中国語を学習する際、真っ先に習得を要する基本的な動詞のパターンを示した。中でも、「授受関係を表す動詞」までの諸タイプが基本的に名詞や名詞のフレーズを目的語成分として求めるのに反し、「心理や思考に関わる動詞」以下の動詞タイプは、節や句全体が目的語成分となることが多い。これらの動詞の分類を踏まえることで、中国語指導者は、具体的な動詞の意味を考究し、本構造を用いて説明ができよう。また、日本人の学習者の場合、日本語で動詞の意味を考慮し、その伴う目的語成分を推察することができる。こうすれば、2.1 で述べた形容詞型の述語文を含め、述語成分を中心とする中国語の構文に対する理解を深めることができる。さらに、それぞれと共起する他の成分を考察しつつ、中国語の構文の全体像を捉えた学習が可能となろう。

3. B ケースに入る諸表現

以下、まずは本稿で提案する構造の B ケースに入る諸表現のタイプを挙げ、それから B ケースに入れることのできる表現の意味機能をまとめる。

3.1 副詞類の表現

副詞は述語成分または「述語成分+目的語成分」に対し、主張、見解、評価等の話し手による細かいニュアンスを表す。ムードに関わる表現の一つである。

杭州**非常**漂亮。(杭州はとてもきれいだ。)

他**没(有)**去过中国²⁶。(彼は中国に行ったことがない。)

明天**早点儿**来²⁷。(明日少し早く来て。)

最近**有点**冷。(このごろちょっと寒い。)

我又**白**跑了一趟²⁸。(また無駄にひとつ走りした。)

这事儿(的确) **是**咱们不对。(この件は確かに私たちが悪かった。)

3.2 時間を表す言葉

²⁶ 「没」は否定の意味を表す副詞である。ここの「没(有)」の全体が副詞の役割を果たしており、「他没有孩子。(彼には子供がいない。)」の「没+有」とは区別される。

²⁷ 「早点儿」「有点」は単独の副詞として教えてよい。

²⁸ 「白」は日本語で「しろ(名詞)」または「しろい(形容詞)」の用法を持つ。その他、この場合のように、日本語の意味では「無駄に」という副詞に相当する用法を持つ。従って、中日両言語において品詞の用法が対応しない場合も多々あるので、学習者に個々の提示を要する。

時間に関わる表現であれば全てがあてはまるというわけではない。以下のような二通りがあてはまる。また、特徴としては B ケースのみならず、A ケースに入れることもできる。しかも大差はないと考えてよい。

3.2.1 日付・時刻・曜日

我 8 月 30 号回中国。(私は 8 月 30 日に中国へ帰る。)

我今天 8 点就到了²⁹。(私は今日 8 時にはもうついていた。)

他们下周一回大阪。(彼らは来週月曜日に大阪に帰る。)

3.2.2 頻度を表す表現のうち、幅の範囲を表す時間表現

我一星期工作五天。(私は週に五日働いている。)

我隔两天去一次健身房。(私は二日おきにジムに行っている。)

他每年都会去夏威夷度假。(彼は毎年ハワイにバカンスに行っている。)

いずれも日付や頻度を提示する、または限定するといった役割を持つ。ひいては、他の時間帯や頻度を排除するような解釈もできる。

3.3 セット類

日本人の学習者が中国語の前置詞をよく付け忘れることを考え合わせ、更に日本語における「名詞＋助詞類」が中国語の「前置詞＋名詞」に対応するものが多いことに鑑みて³⁰、筆者は、日本語の「名詞＋助詞類」及び中国語の「前置詞＋名詞」をセットと呼ぶことにする。ここでいう助詞類は、「～で」「～へ」「～より」「～から」「～まで」のような単独的な助詞を指すだけでなく、「～（の）ために」「～（の）かわりに」「～に向かって」「～に対して」のような複合助詞と言えるものも含む。

我用毛笔写³¹。(筆で書く。)

明天坐飞机去上海。(明日飛行機で上海に行く。)

给没有见过面的王教授打电话。(面識のない王教授に電話をかける。)

您可以帮我打听一下吗？(私に代わって聞いてくださいますか？)

²⁹ 「今天星期天。(今日は日曜日。)」の「今天」のように、主語になる場合は除外される。

³⁰ 初・中級の学習において、対応するものが極めて重要な文法項目の一部であるという点、またいわゆる方向補語や前置詞を合わせて整合的説明できるという点から考えてセットという概念を用いた説明は日本人の学習者にとって有効なものと考えられる。

³¹ このような道具を表す表現として「我写毛笔。(筆で書く。)」も成り立つ。学習者にはこのようないわゆる「非受事賓語句」を紹介しておく必要がある。

河村已经替你付了钱。(河村さんはもうあなたの代わりにお金を払った。)

工作人员先深深地向大家鞠了一躬。(従業員はまずみんなに深々と一礼をした。)

他已经为所有的人沏好了茶。(彼はもうみんなのためにお茶を淹れ終わった。)

B ケースに入るセットのうち、「来+場所名詞」と「去+場所名詞」には特に注意する必要がある。何故ならば、日本語の「場所名詞に～しに行く」と「場所名詞に～しにくる」のそれぞれに対応しているからである。

我来(大学)学习中文。(私は(大学に)中国語を勉強しに来た。)

我和妈妈一起去(超市)买东西。(私は母と一緒に(スーパーに)買い物に行く。)

とりわけ、目的地がはっきりしている場合、会話中の場所名詞は省略されるのが一般的である。この場合、「～しに行く」「～しにくる」に当たるため、従来の「連動文」という説明より、本稿で提案しているセットという概念を用いた説明のほうが日本人にとってわかり易いと思われる。

概言すれば、この場合のセットが B ケースに入ると、道具・手段や対象など様々な情報を提示する役割を持つ。

無論、セットには中日両言語で対応するものと対応しないものが存在するため、すべてを機械的に覚えればよいというわけではない。

隣の家から火が出た³²。(隔壁着火了。)

矢が**的**から逸れた。(箭偏离了靶子。)

特に「杭州に行く」のような目的地を表す「～に」の場合や、「手に噛み付く」のような一部の「第二の他動詞」³³と共起する「～に」は、目的語成分と見なされる場合があるため、注意する必要がある。

以前去过**杭州**。(以前杭州に行ったことがある。)

咬住**手**死死不放。(手に噛み付いて一向に離さない。)

また、セットであっても一種の「(予定) 結果」と解釈されるものは、B ケースには入らず、専ら補語として用いられる場合もある。

请把书包放在**桌上**。

(かばんを机の上に置いてください。)

我把手机忘在**家**了。

³² 王軼群 (2010) による。

³³ 仁田 (1982) は、「を」を伴わないものの、明らかに働きかけの対象と共起するような動詞を「第二の他動詞」と呼んでいる。

(携帯を家に忘れた。)

我每天都从早上 8 点一直工作**到晚上 10 点**。

(私は毎日朝 8 時から夜 10 時まで働いている。)

请将中文翻译**成日语**。

(中国語を日本語に訳してください。)

更に、B ケースに入れることのできる用法と補語としての用法の二つを持ち合わせるセットもある。現れる位置の相違によってそのニュアンスも異なることを示しておかなければならない。

姐姐打算**给妹妹**寄衣服。(… (のため) に³⁴)

(姉は妹 (のため) に、服を送るつもりだ。)

姐姐打算把衣服寄**给妹妹**。(着点)

(姉は服を妹に送るつもりだ。)

ところで、本稿の基本姿勢として「連動文」という概念を積極的に取り入れてはいないが、従来の「連動文」は、本稿で提案するセットという概念との連続性を説明するには寧ろ好例である。つまり、「着」を伴わない場合、セットとしてみなしてよいが、「着」を伴う場合は「着」による描写機能が働いて前置詞よりは動詞として解釈される。この点は更に後述の 3.6 を参照されたい。

坐飞机去上海。(飛行機で上海に行く。)

坐 (着) 飞机去上海。(飛行機に乗って上海に行く。)

3.4 助意表現 (いわゆる「助動詞」の類)

助意表現とは述語成分または「述語成分+目的語成分」で構成される節に対し、何らかの意味を付加するような表現を指す。従来の中国語教育で助動詞と呼ばれるものは全てその中に含まれる。

我**喜欢**一个人看电影³⁵。(一人で映画を見るのが好きだ。)

我**愿**舍命陪君子。(とことん付き合うよ。)

また、述語成分または節に対してある意味を付加させる点からして、日本語における複合動詞の一部分や一部の形式名詞の中国語訳も助意表現に含まれる。

³⁴ 日本語の場合、「～してあげる」という意味を表すときに使うことが多い。

³⁵ 助動詞と呼ばれるものは、動作・行為動詞としての用法を持つので、学習者に提示しておく必要がある。例えば、「我**喜欢**黑色的衣服。(黒い服が好きだ。)」 「我非常**想**你。(あなたがとても恋しい。)」は動詞の用法である。

我打算下个星期去中国。(私は来週中国に行くつもりだ。)

大家开始对他产生怀疑。(みんな彼を疑い始めた。)

我可能得到下个月才能给您回复³⁶。(お返事は来月になるかもしれません。)

このように、述語成分または「述語成分+目的語成分」の節全体に対して、細かい意味を付加するという点では副詞に相通ずるところがある。従って、本稿は、従来の研究と異なり³⁷助意表現を B ケースに区分することで、副詞やセットなど他の B ケース表現との語順の前後関係や語順の相違による細かいニュアンスの差を自ら捉えることができる、という利点がある。

3.5 「～く」「～と」「～に」類

これは日本語の形容詞の活用形と「～と」型の副詞の形態的特徴を意識した命名である。日本語では、イ形容詞とナ形容詞はそれぞれ「く」と「に」の形で動詞を修飾する。また、「ゆっくりと」型の副詞も当然のことながら動詞を修飾できる。本構造の述語成分の前方に位置する B ケースは、同様な文法機能を持ちあわせるため、これらの表現を中国語にする場合、B ケースに入れることができる場合もある³⁸。

再次我向大家**深表谢意**。(改めて皆様に厚く御礼申し上げます。)

请**慢吃**！(ゆっくりとお召し上がりください。)

また、構造助詞と呼ばれる「地」を伴う場合、これらの表現はすべて B ケースに入ることとなる。ある意味では、「地」は中国語における活用らしきものとも言える。ただし、「地」を伴わないのが無標の活用であるのに対し、「地」を伴うのは有標の活用とみなすことができる。

明天大伙儿**高高兴兴地**痛快一次。(形容詞の重ね型)

(明日みんなで思いっきり楽しもう。)

中国队**轻松地**结束了这场比赛。

(中国チームが楽々と試合を終わらせた。)

そして、B ケースに入る日本語の「～く」「～に」「～と」類に相当する諸表現は、述

³⁶ 「可能」のように、文頭に来るものもある。述語成分または句全体に対する助意という点では接続詞、副詞と一致しており、連続性を有するものと考えられる。

³⁷ 従来の研究では助動詞の類を述語成分として扱うのが一般的である。

³⁸ これらの表現のうち、(予定)結果として理解されうるものは、結果補語を含む補語表現となり、述語成分の後ろに置く場合もある。「她总是把房间打扫得**干干净净**。(彼女はいつも部屋をきれいに掃除している。)」**「我已经把衬衫洗干净了。**(もうシャツをきれいに洗った。)」**「请把话说清楚。**(わかりやすく話をしてください。)」

語成分または「述語成分＋目的語成分」の節の実現などの有り様を説明的に述べる役割を有するものと考えられる。

3.6 動詞類

B ケースに入れることのできる動詞「死」は、ある種の状態に近い意味を表す。このような動詞はごく一部に限られ、更に構造助詞「地」を伴うこともできる。

你不要**死**按规定办事。(型にはまりきった仕事をしないで。)

他**死死地**掐住对方毫不松手。(力の限りに締め付けて手を離さない。)

また、「着」を伴う形が多数存在する³⁹。

我每天都是**走(着)**去学校。(私は毎日歩いて学校に行く。)

学生都**抢着**回答问题。(学生はみんな先を争って問題に答えようとする。)

更に、初・中級の学習項目ではないが、「给」が述語成分となり、その前の B ケースに動詞類が入るという使い方もある⁴⁰。

我把这支笔**送**给你用吧⁴¹！

(このペンあげるから使って。)

我就把这支笔**留**给你用吧。

(このペン置いておくから使って。)

儿子非常不愿意地将压岁钱**交**给妈妈保存。

(子供はいやいやながらお年玉を母親に預けることになった。)

このように、B ケースに入る動詞表現は、述語成分や節全体の動作や行為をより細かく説明するという効果がある。

3.7 範囲を示すことのできる名詞の類

全体と部分関係の意味を有する名詞⁴²のうち、部分を表す名詞を B ケースに入れるこ

³⁹ 上述の通り、このタイプの表現は、「咱们**骑车**去学校。(私たちは、自転車で学校に行く。)」
「我们去(場所名詞)喝咖啡。(私たちは(～に)コーヒーを飲みに行く。)」のようなセット類表現と連続性を有するものと考えられる。

⁴⁰ 「给」には日本語で「あげる」という意味で直接目的語と間接目的語の両方を求める用法がある。
「他给了我一块巧克力。(彼はチョコレートをひとかけくれた。)」

⁴¹ この用例における「给」は「我把这支笔送给你。(このペンをあなたにあげる。)」の「给」と区別される。前者が「…(の)のためにあげる」という意味を表す動詞で述語成分に入れられるのに対し、後者は「誰誰に」という着点の意味を表すセットで補語表現とみなされる。英語で前者が「FOR」であるなら、後者は「TO」に相当する。

⁴² カテゴリーを表す上位名詞とその下位にある名詞も含む。

とで、全体範囲の中の部分範囲を提示することができる。

他**头戴**一顶白帽,**身着**一身黑衣。 (セット「～に」とも)

(頭には白い帽子、身には黒い服をまとっている。)

他女朋友**个子**挺高⁴³。

(彼の彼女は身長がかなり高い。)

我**蔬菜类**不太爱吃。

(野菜はあまり好きではない。)

他**菜**做得非常不错。

(彼は料理がうまい。)

また、「数量詞＋名詞」で指定範囲や最小範囲を示す場合もある。

这屋子我们**两个人**住。 (セット「～で」とも)

(この部屋は私たちが二人で住んでいる。)

我**这三本书**只看过一本。 指定範囲

(3冊のうち、1冊しかよんでいない。)

你**这两本书****一本**也没看吗? 部分指定範囲

(2冊のうち、1冊も読んでいないの?)

这次大减价我**一样东西**也没买到。 最小範囲

(今回のバーゲンでは、一つも買えなかった。)

你**这个月一次学校**也没去吧! 最小頻度

(今月一度も学校に行っていないだろう。)

そして、B ケースに疑問詞が現れた場合、全範囲を示すこととなる。

他**什么**都会。 全範囲 (彼は何でもできる。)

他**哪儿**都愿意去。 全範囲 (彼はどんなところにも行く。)

更に、「(甚至) 连＋名詞」「就＋名詞」のような形で目的語関係にある名詞を取り立てる場合がある。

⁴³ 中国語における「主述述語文」と呼ばれる構文である。その一部の用例は日本語における「～は～が～」構文に相当するが、「～が」から読み取れる複数の選択肢から一つを限定するという役割を考えると、「～が」に相当する中国語訳の部分でB ケースに帰することは理に適っていると思われる。なお、「主述述語文」という考え方は、中国語の文を理解するにおいては役に立つものと考えられるが、日本語から中国語に訳す場合においては有効であるとは言い難い。「主述述語文」を強調しすぎるがために、中国語の語順を体系的に捉えることができなくなるとも考えられる。本稿は、「主述述語文」を否定しようとするものではないが、本稿が主張する体系的な語順学習の説明においては、この考え方を取り入れないこととする。

他**连饭**也懒得做⁴⁴。(彼は怠けてご飯すら作ろうとしない。)

我就**白酒**不会喝，别的都行。(白酒だけはだめだけど、他は全部飲める。)

B ケースに入る以上のような表現の役割をまとめると、述語成分や節に関わる様々な範囲を限定する役割を持つと言える。

3.8 接続詞の類

接続詞のうち、ごく一部のものに限られる。

我们没有**因此**放弃努力。

(私たちは、これで努力するのをやめたというわけではない。)

「因此」は「これより」という訳の通り、これ以外の要素を除外する意味である。B ケースに入っている場合、文を接続するというより、排他的な意味を表す⁴⁵。

以上の記述に基づき、B ケースに入る諸表現の役割を次の表にまとめる。

	B ケース	意味特徴や役割	概言
3.1	副詞類の表現	細かいニュアンスの付加	特 (別) 提 (示)
3.2	時間を表す言葉	限定または排他的に述べる	
3.3	セット類	情報を細かく提示する	
3.4	助意表現の類	細かい意味の付加	
3.5	「～く」「～に」「～と」類	詳細に述べる	
3.6	動詞類	細かく説明する	
3.7	範囲を示せる名詞の類	部分範囲を提示する	
3.8	接続詞の類	排他的に述べる	

4. A ケースに入る諸表現

4.1 目的語成分の前置

目的語成分に相当する名詞または名詞節が前置され、話題を提示する。目的語成分の位置に戻せるものとそうでないものがある。例えば、

⁴⁴ 「(甚至) 连 + 名詞」「就 + 名詞」「是 + 名詞」の場合、その全体が日本語の「名詞 (で) さえ」「名詞だけ」「名詞こそ」「名詞が」といった表現に相当するため、セットと考えることもできるが、本稿では複合形の名詞と見なす。詳細は後述の主語成分の箇所を参照されたい。

⁴⁵ 接続詞の基本的な役割はやはり節や句を接続することである。B ケースに入る接続詞が少ないのも、「因此」のような排他的な意味を持つ接続詞が少ないことから考えると納得がいく。

这件事他办得了。(この件は、彼ならできる。)

电视是我弄坏的。(テレビは私が壊した。)

喝酒我最拿手了。(酒を呑むのは得意だ。)

以上のようなものは目的語成分に戻すことができるが、以下の用例のようなものは、構造上の特徴により、目的語成分に戻すことができない。

书我已经搁教室里了。

(本はもう教室の中に置いた。)

好不容易赚来的积蓄被他一下子花得个精光。

(せっかく稼いだ貯蓄を彼はあつという間に使い切った。)

4.2 トピックを示す節や挿入句の類

トピックを表す節や挿入句の類が A ケースに入ることがある。共に話題提起の点では一致している。節の場合、「关于」を付けることができる。

(**关于**) **这样的事**他的经验可很丰富了。

(このようなことに関して、彼の経験はとても豊富だ。)

そして、挿入句は一般的に「关于」「听(…)」说」「据(…)」说」「根据…来看」「对…来说」等のフレーズを伴う。文を繋げる点では接続詞と連続性を持つ⁴⁶。

听河村说她老家在盛冈。(河村さんによれば、実家は盛岡だそうだ。)

4.3 時間を表す言葉

時間の表現で主語成分を成さない場合、A ケースに入れることができる。B ケースに入る場合と同様、時期、日付、時刻、曜日等を細かく提示する役割を有するが、B ケースの場合と比べて更にこれらの時間表現を一つ的话题として使われるときがある。

(**在**) **当时的那个年代**谁也没有勇气站出来。

(当時はだれも立ち上がって意見を述べる勇氣はなかった。)

下个月我会去一趟杭州！

(来月、杭州に行ってくる。)

4.4 場所のセット

⁴⁶ B ケースに入る場合、複合形のセットとも見なせる。

上の時間を表す表現と同様、B ケースのそれと比較して更に話題性が高いと捉えることができる。

(在) 四川人们都爱吃辣的。(四川ではみんな辛いものが好きだ。)

在中国人们开始追求高质量的生活。(中国では、みんな質の高い生活を求め始めた。)
次のような抽象的な「場所」セットでも一種の話題と見なすことができる。

在那样的情况下我只能默认了。

(このような状況下では、私はただ黙っているしかできなかった。)

4.5 様々な範囲を表す名詞・イベント名詞

範囲を提示するという役割では B ケースに入る場合と同じである。ただし、A ケースに入れる場合、話題のニュアンスが読み取れる場合が多い。

每个月我会带着孩子回一趟老家。 頻度 (の範囲)

(毎月一度は子供を連れて実家に帰る。)

这几本书我一本也没看。部分指定範囲 (これらの本のうち、一冊も読んでいない。)

一个字我都没说。 最小範囲 (一言も言っていない。)

什么人她都敢交。 全範囲 (どんな人でも親しく話しかける。)

这次大减价我一样东西也没买到。 イベント名詞

(今回のバーゲンでは、一品も買えなかった。)

4.6 一部の助意表現や副詞

助意表現のうち、主語成分を含む文全体に対して意味包括 (5.B ケースの法則を参照) できるようなものは A ケースに入れることもできる。文全体に対して作用する点では接続詞に近い。なお、B ケースに入る助意表現は述語成分のみまたは「述語成分+目的語成分」に意味付加を行うという点において、A ケースの場合と区別される。

可能大家还都不知道。(みんなはまだ知らないかもしれない。)

也许咱们明天就可以知道具体情况了。

(明日になれば、具体的な話がわかるかもしれない。)

4.7 一部の動詞のフレーズ

数的に多くはないが、挿入句に近い動詞のフレーズがある。文全体に対して作用するという点では接続詞的であると言える。説明の便宜上、A ケースに入るものと見なす。

看上去你今天心情不错啊！（見たところ、今日は機嫌よさそうだね。）

听起来你说的像真的似的。（あなたの話を聞く分には、まるで本当のことのようだ。）

今天还是我来请客吧！（今日はやはり私が奢ろう。）

肯定是他弄坏的。（絶対彼が壊したのだ。）

以上の記述に基づき、A ケースに入る諸表現の役割を次の表にまとめる。

	A ケース	意味や役割	概言
4.1	目的語成分の前置	話題の提示	提 題
4.2	節や挿入句の類	トピックを示す	
4.3	時間を表す言葉	話題として解釈されうる	
4.4	場所のセット	話題的な意味を有する	
4.5	範囲名詞・イベント名詞	話題のニュアンスを持つ	
4.6	一部の助意表現や副詞	接続詞に近い	接続詞的
4.7	一部の動詞のフレーズ	挿入句に近い	

5. B ケースの法則

極端に言うと、中国語の場合、述語成分を軸に、主語成分と目的語成分を揃えるだけで、最低限のコミュニケーションをとることが可能であると言える。その上に、より細かな情報を付す方法として述語成分の前方からと後方からの二通りが存在する⁴⁷。後方からのものは、いわゆる「補語」表現と呼ばれるもので、本研究の構造を用いた学習については劉（2008）を参照されたい⁴⁸。述語成分の前方からの表現方法の中では、B ケースのパターンが最も豊富で、細かい情報付加をする際の要であると言っても過言ではない。本稿で提示している構造内の諸ケースを一個一個の箱と見なすと、同じ箱内に複数のカード（個々の表現の書かれているもの）を投入する場合が生じる。とりわけ、B ケースにおいて複数の表現が用いられた場合、個々の表現の前後関係を正しく示すことは文全体の語順をクリアする上で欠かせない作業となる。本稿では、B ケースにおける語順の並べ方を「B ケースの法則」と呼ぶことにする。概言すれば、次の通りである。

⁴⁷ 庵（2001）によれば、日本語の場合、修飾関係と被修飾関係をなすという。従って、ここで言う情報を付け加える点について、一般的には述語成分に対して前方からの方法を取ると考えられる。勿論、日本語に述語成分の後方からの情報の付加がないというわけではない。詳しくは、劉（2008）を参照されたい。

⁴⁸ 可能補語の説明については修正を行う必要があり、詳細は別稿に譲る。

ア、後部向け意味包括法則：助意表現はその後ろ表現だけ、意味上包括関係をなす。

河村打算今年4月上北京留学。(河村さんは、今年4月に北京へ留学するつもりだ。)

河村今年4月打算上北京留学。(今年の4月、河村さんは北京に留学するつもりだ。)

河村今年4月上北京打算留学。(今年4月、北京に、河村さんは留学するつもりだ。)

イ、言葉同士の緊疎関係法則：述語成分に近ければ近いほど、その表現と述語成分との関係が緊密である。そのため、訳を付けるに際して、内層から外層へと訳を付けていく必要がある⁴⁹。

大家都不一定来。(みんなが全員必ず来るとは限らない。)

大家不都一定来。(みんなが絶対くるとは限らない。)

大家一定都不来。(みんな誰も絶対来ない。)

大家一定不都来。(みんなはきっと全員が来るとは限らない。)

上述のBケースの両法則を応用することで、文を作る際、語順を判断する大きな手助けとなろう。ネイティブでなくても、Bケースにある複数の表現の前後関係をある程度正しく決められる⁵⁰。そして、読解力を深めるという点に関して言えば、Bケースにおける細かいニュアンスの理解に、極めて役立つものであろう。

6. 述語成分を軸に前方という位置による意味文法機能について

上述の内容を考え合わせ、述語成分の前という位置がどのような意味的文法機能を持つのかを考えてみたい。本稿で提示している構造を見てもわかるように、AケースとBケースのほか、主語成分に入る表現についても示す必要がある。

中国語には無主語述語文があり、自然現象や出現・消滅の意味を表す場合がある。

从车里走下两个人。(車から二人降りてきた。)

隔壁屋着火了⁵¹。(隣の部屋から出火した。)

無主語述語文に対して、主語を持つ述語文がある。以下、名詞または名詞節が主語成分を成す場合と句全体が主語成分を成す場合とに分けて述べる。まずは名詞または名詞節の場合について以下に示す。

⁴⁹ 直訳で理解し、最後は意識を付ける。

⁵⁰ 「今天我得加班到晚上10点(今日は夜10時まで残業しなければならない。)」 「别坐在地上(床に座るな。)」 (3.3 参照) 「请把桌子擦干净(机をきれいに拭け。)」 「我没听清楚(はっきり聞こえなかった。)」 (3.5 参照) のような「夜の10時まで」「床に」「きれいに」「はっきり(と)」といった中国語では「(予定) 結果」として解釈されうる表現は補語を用いなければならないという点を日本人の学習者に示しておく必要がある。

⁵¹ セットの概念から考えて本稿はこのような用例を「場所主語」として認めない。

a 動作主主語（動作・行為動詞の仕手）

他只喝了一口水就走了。（人名詞）（彼は一口だけ水を飲むと去っていった。）

公司采用我的意见。（集団名詞）（会社は私の意見を採用した。）

篮球碰到了我的头。（物名詞）（バスケットボールが私の頭に当たった。）

b 経験者主語

妈妈不小心打碎了一个杯子。（母はうっかりしてコップを割った。）

我一不小心切了手。（私はうっかり手を切った。）

c 原因や理由主語

台风吹倒了院子里所有的花盆。（台風が庭の全ての植木を薙ぎ払った。）

大风吹走了帽子。（強い風が、帽子を吹き飛ばした。）

d 意味上の対象主語

房子倒了。（家が倒れた。）

杯子破了。（コップが割れた。）

e 被動主語（人・物）

我被爸爸打骂了一顿。

（父に叱られた。）

幸福一瞬间就被眼前的一切吹灭了。

（幸せは一瞬にして目の前の事実によって吹き消された。）

f 使役主語（人・物）

老师让学生每天背单词。（先生は学生に毎日単語を覚えさせる。）

巨大的压力令他喘不过气来。（彼は強いプレッシャーのせいで息ができない。）

g セット主語（セットが事柄名詞相当）

（从）这儿到那儿都是这家公司的场地。

（ここからあそこまで全部この会社の敷地だ。）

（从）4月到6月为该地的旅游旺季。

（4月から6月までがその観光シーズンだ。）

h 特別提示方主語（特殊セットとも⁵²⁾

电视是我弄坏的。

⁵²⁾ 「名詞＋助詞類」の意味では本稿のセットという概念と一致するが、日本語の意味を考える際、「名詞が」「名詞こそ」「名詞だけ（orのみ）」「名詞（で）さえ」「名詞（で）すら」には個々の名詞を際立たせる意味が含まれており、本稿はこれらの特殊なセットの全体を名詞と見なす。

(テレビは私が壊した。)

就你最行！

(あなたが一番できる。)

这种事就**连小孩**也知道不能做。

(こんなことをしてはいけないということは、子供でさえ知っている。)

这个问题**连 5 岁的**小孩也会。

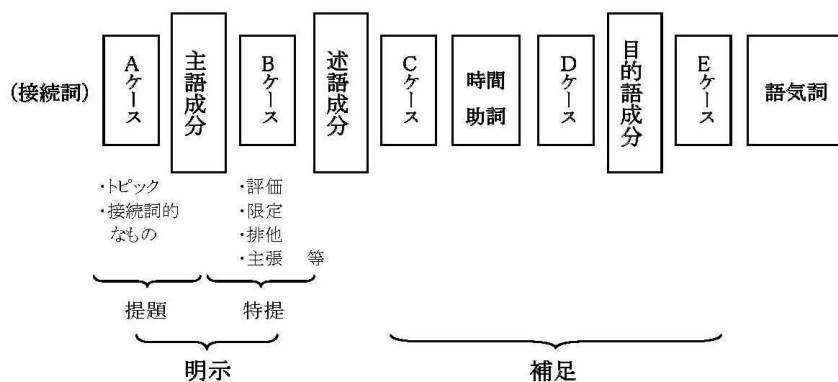
(この問題は 5 歳の子供でさえ解ける。)

そして、句全体が主語成分を成すものとしては次の用例が挙げられる。

每天去打扰他不太好吧！

(毎日彼を邪魔するのはよくない。)

このように、日本語の主語成分は「は」⁵³と「が」によって示されることに鑑みて、主語のマーカーをほとんど伴うことのない中国語の主語成分も、大きく話題提示と主語提示の二つに分けられる。従って、A ケースと B ケースの内容を考え合わせ、述語成分に先行する要素（成分）の役割を概言すれば、「明示（明確に示す）」とみなすことができよう。これを述語成分より後ろに位置する要素（成分）の役割と合わせると、次の表のようにまとめることができる。



(図 1)

7. 今後の課題等

本稿は日本人の中国語学習者が中国語を勉強するにあたって、母語である日本語を対

⁵³ 「は」のほか、さらに「って」「とは」「～なら」「～たら」等がある。

照言語として利用することが有効であると考え、提示した構造に基づき、述語成分に先行する要素（成分）の配置について述べた。今後の課題として、より多くのデータを用いて綿密に検討し、述語成分前後の位置による意味機能の相違を明らかにし、また、日中対照研究の課題として、本稿で用いたセットの概念に関して、両言語において対応するものと対応しないものを明らかにすることで、中国語教育のみならず、中国語学への寄与を目指す。更に構造を通して、「は」と「が」の対応関係、更に「って」「とは」「～なら」「～たら」を含む主語成分のあり方を明らかにすることで、中国人を対象とする日本語教育にも貢献したい。

参考文献

（日本語）

- 相原茂・石田知子・戸沼市子 1996『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』
同学社
- 荒川清秀 2010「中国語の文の成分」『国文学解釈と鑑賞』75-7、至文堂
- 庵巧雄 2001『新しい日本語学入門』、スリーエーネットワーク
- 内田賢徳 1975「形式副詞—副詞句の形相」『国語国文』44-12
- 遠藤紹徳 1989『中←→日翻訳表現文法—中文日訳・日文中訳の原点とテクニック—』
バベル・プレス
- 王軼群 2010「状態と状態変化における「起点」の認知—「から」と“从”を中心に—」（第20回中日理論言語学研究会発表レジュメ）
- 大河内康憲 1973「日中対照文法論」『国語シリーズ別冊 2 日本語と日本語教育（文法編）』
文化庁
- 大河内康憲 1982「格助詞に対応するもの」『講座日本語学 10 外国語との対照 I』
明治書院
- 大河内康憲 1982「中国語構文論の基礎」『講座日本語学 10 外国語との対照 I』
明治書院
- 大河内康憲 1997『中国語の諸相』白帝社
- 大野純子 1993「日本語間接受動文の制約」『日本語と日本語教育』22、慶応義塾大学国際センター
- 加藤重広 2006『日本語文法 入門ハンドブック』研究社
- 洪潔清 2009『疑問解決の参考書 どうしてそうなる？中国語』白帝社

- 香坂順一 1989『文法からの中国語入門』光生館
- 興水優・島田亜実 2009『中国語わかる文法』大修館書店
- 朱徳熙 1995『文法講義—朱徳熙教授の中国語文法要説—』（杉村博文、木村英樹訳）
- 杉村博文 1994『中国語文法教室』大修館書店
- 鈴木重幸 1972『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 寺村秀夫 1982『日本語のシンタクスと意味』Ⅰ、くろしお出版
- 寺村秀夫 1991『日本語のシンタクスと意味』Ⅲ、くろしお出版
- 蘆濤 1997「在大阪住と住在大阪」『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』
- 鳥井克之 2003「再論 中国語の句について—新しい中国語教学文法の再構築を目指して—」『關西大學中國文學會紀要』24
- 鳥井克之 2003「再論 中国語の統語成分について(上)—中国語教学文法の再構築を目指して—」『關西大学外国語教育研究』5
- 鳥井克之 2003「再論 中国語の統語成分について(下)—中国語教学文法の再構築を目指して—」『關西大学外国語教育研究』6
- 鳥井克之 2004「再論 中国語の複文について—新しい中国語教学文法の再構築を目指して—」『關西大学外国語教育研究』8
- 西川和男 2005『中国語の誤用分析—日本人学習者の場合—』関西大学出版部
- 仁田義雄 1982「日本語の自動詞・他動詞とは何か」『国文学解釈と教材の研究』27—16
- 平山邦彦 2009「存現文教学に関する一考察」『中国語教育』7
- 彭広陸 2003「日本語教育における新しい文法体系の構築のために—用言の活用表を中心に—」『国文学解釈と鑑賞』68—7、至文堂
- 方梅 2010「文体差異と中国語文法の研究および教育」（大阪産業大学梅田サテライトキャンパス講演会）
- 益岡隆志 1991『モダリティの文法』くろしお出版
- 松下大三郎 1930『改撰標準日本文法』（徳田政信編 1974 勉誠社）
- 丸尾誠 2010『よくわかる中国語文法—基礎から発展まで—』アスク出版
- 三瀧正道 2005『知りたいことがしっかりわかる実戦中国語文法』朝日出版社
- 村木新次郎 1991『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 村木新次郎 2010「文の部分と品詞」『国文学解釈と鑑賞』75—7、至文堂
- 守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

劉月華ほか 1996『現代中国語文法総覧』（片山博美ほか訳）、くろしお出版

劉志偉 2008「日本人の中国語勉強に関する小考（続）」『かりん』創刊号、京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館

呂淑湘 2003『現代漢語八百詞増訂版（日本語版）』東方書店

（中国語）

範曉 1998『漢語的句子類型』書海

房玉清 2001『実用漢語語法（修定版）』北京語言大学出版社

郭熙 1986「放到桌子上放在桌子上放桌子上」『中国語文』

王力 1985『中国現代語法』（上・下）商務印書館

楊榮祥 2005『近代漢語副詞研究』商務印書館

趙元任 1979『漢語口語語法』商務印書館

張誼生 2000『現代漢語副詞研究』学林出版